

研究課題名	眼球構造パラメータが緑内障患者の眼底血流に及ぼす影響についての研究
研究責任者名	医系科学研究科 視覚病態学 教授 氏名 木内 良明
研究期間	2021年9月3日 倫理委員会承認日～ 2025年3月31日
対象者	令和3年(2021年)8月1日から令和5年(2023年)3月31日の間に、広島大学病院眼科を緑内障疾患で受診し、一般的眼科検査を受けた20歳以上の患者さんを対象とします。
意義・目的	<p>緑内障は失明原因第2位の疾患です。緑内障発症、進行の最大の危険因子は高眼圧です。唯一エビデンスのある治療法は眼圧下降しかないです。しかし、眼圧以外にも循環因子、眼球剛性因子などが緑内障発症、進行の危険因子として多くの疫学研究で示されています。中でも循環因子は正常眼圧緑内障においては眼圧に次ぐ大きなリスクである可能性が示されています。近年、レーザースペックルフローグラフィ(LSFG-NAVI)によって眼底血流を把握できるようになりました。レーザースペックルフローメトリーを使用した研究では、緑内障の病期が進行するほど脈絡膜循環が減少することも示されています。</p> <p>また、コルピス(Corneal Visualization Scheimpflug Technology, Corvis ST)、光干渉断層計(Optical Coherence Tomography, OCT)、共焦点レーザー走査型顕微鏡(Heidelberg Retina Tomograph, HRT)をはじめとする機器により、眼球の構造を詳細に検討できるようになりました。</p> <p>本研究では、緑内障患者における眼底血流状態の把握・眼球構造パラメータが緑内障患者の眼底血流に及ぼす影響を把握することを目的とします。</p>
方法	本研究は全て診療録(カルテ)情報を転記し解析します。カルテから転記する内容は眼疾患名、年齢、性別、眼所見、眼底血流速度、視神経乳頭形状、網膜・脈絡膜の厚み、眼軸長、前房深度、角膜曲率半径、視力、屈折、眼圧、視野です。個人が特定できる情報は転記しません。
共同研究機関	共同研究機関はありません
試料・情報の管理責任者	広島大学医系科学研究科 視覚病態学 教授 木内 良明
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5247

広島大学病院 診療支援部 職名 視能訓練士 中新井田 悠太